

東京農業大学

湘南稲桜会だより

発行 東京農業大学 校友会神奈川県支部 湘南稲桜会 発行責任者 松居靖雄
事務局 〒238-0032 横須賀市平作 4-1-9 清水圭一方 TEL 046-854-0044

<平成29年度研修会報告>

関恵梨子 (S50 栄養学科)

平成29年11月12日(日)晴天に恵まれて、京急三崎口駅に13時集合しました。徒歩で県立農業技術センターを視察。ここで働いている当会の中山大海氏に説明してもらいました。県下には根府川・三浦・北相地区にセンター

があるそうです。ビニールで覆われ、こかぶやレタス、ブロッコリーが植えられていました。温室の中には、育苗を行う道具があり、また、黄色・オレンジ色の肉厚パプリカは枝を上から吊っていました。先日の台風の影響で屋根が一部飛んでしまっていました。さすが三浦半島ですから、三浦大根や青首大根・キャベツも並んでおり、大根の葉もちよとずつ変わっていて、「ooの種」と銘打つての札が各々ならんでいた。「ここで作った野菜は、農協かなんかに出すのですか？」と質問したところ、野菜によっては農薬を使っているため、出荷はしませんが、それ以外の食べられる野菜については、近くの学校給食に安い値段で買ってもらっているとのことでした。日当たりのよい環境で、農業技術の研究・開発

湘南稲桜会 (横須賀市、鎌倉市、逗子市、三



浦市、葉山町)の会員情報誌「湘南稲桜会だより33号」を発行しました。

是非ご覧いただき、ご意見や感想などいただければ幸甚に存じます。

(事務局長 清水圭一 S46 造園卒)

常に輝いていました。

次に三崎口駅まで戻って、バスに乗り小網代の森・引橋入口まで行きました。小網代の森の説明は当会会員の廣濱先生にお願いしてあったのですが、当日ご母堂様が他界されたとのことで、急きよ当日参加していた池田さんに説明してもらいました。70ヘクタールの敷地に2,000種類の植物、50種類のカニもいて湧水から海までつながっている場所は少ないとのこと。昭和45年ゴルフ場ができるということもあったそうですが、カニが小網代の森を守ってくれたようです。月夜の晩にカニの大移動が見られるそうです。時期は6から7月ごろで、詳しくはインターネットで検索してください。なんとロマンティックなことでしょう。その時期にはぜひ見てみたいと思いました。

シーボニアからバス停までの近道の階段があり、かなりの息切れで大変でしたが、近道の新たな階段を発見できて池田さんに感謝です。シーボニアからバスで三崎口駅に行くと、駅前「けいきゅん」というオープントップバス(2階建てバス)が停まっています。みさきマグロ切符(三浦・三崎おもひで券)お持ちの方限定の先着順による座席定員制だそうです。帰路、三浦海岸駅のそばの居酒屋で懇親会。初めて参加した初声分校のホープ小泉さん、応援団出身の深澤さんともども大いに親睦を図ることができました。最後に応援団の深澤さんのエールで学歌斉唱し終了しました。会長の奥様には懇親会にも参加いただき、有意義な研修会の日を過ごせました。

<「蜜柑」を読んで>

臼井浩(S41 林学科)

昨今、とみに外出の機会(当会行事を除く)が減ってきた。やはり一抹の寂しさが拭えない。時間の流れがそうさせているのかなと思うが、私の周辺も急速に生活環境が変化してきた。所謂「少子高齢化」の影響か如何とも



し難しく、せめて公共施設等の充実等行政サイドでのフォローに期するものだが無理な話か。一つに車内風景も様相が一変した。持ち込みが雑誌・マンガ・新聞・単行本の類であったものが、「情報メディアの申し子」スマホ等とその主役の座を譲り渡している。書籍図書出版関連の事業体が近年ジリ貧傾向にあるとの話をよく聞くようになった。実際、ポータブルでスピーディで使い勝手の、コミュニケーション手段の最適な利器であることは認めざるを得ない。他には年賀状に関してもやはりパソコン主導で味気ない。せめて年一度の交流の場ぐらひは、自筆の挨拶を交わしたいものだ。「時代遅れ」の誹りは脱れようもないのだが、古き慣習が置き去りにされるのはやはり耐え難く、ただ偏に私だけの心境なのだろうか。「機能・利便性ファースト」で現在のスピード化に即しているのは事実だが、それと引き換えに人の心情や胸中の琴線に触れるようなある種の温かい潤いのある安らぎにも似た情感が徐々に薄れていくと思うのは単なる杞憂に過ぎないのであろうか。一方、何時の時代にも若い世代の人たちは、その生き方が自由で伸びやかな側面を備えている傾向が強いが、その内実には個々人様々であることもまた事実であらう。そのような例をこれから見たい。

閑話休題。

或る曇った冬の夕暮れ、横須賀発上り二等客車の隅で『私(作者)は発車を待っていた』。事の発端は、日和下駄を鳴らして、十三、四の小娘が『私』の隣に座ってから始まった。油っ気のない髪を引詰めの银杏返しに束ね、

横なで痕の^{ひび}皸だらけの頬、大きな風呂敷包みを抱え、しもやけの手の中に三等の赤切符を握りしめた少女の^{とて}逆も不愉快な振舞いがあった。しかし、ある駅のトンネルを境にその苛

立ちを安らぎと暖かさにかえてゆく……(中略) 汽車の硝子戸を開け、闇を吹き抜ける風に髪の毛を戦^{そよ}がせて、じっと前方を見つめている。とある貧しげな町外れの踏切にさしかかった。柵の向こう側に頬の赤い三人の男の子が犇^{ひし}めき合い立っている。汽車が彼等の手前にきた時、三人は一斉に手を挙げ、たいいけに意味不明の喊声を上げる……。その時、半身を乗り出した例の娘が霜やけの手を伸ばして勢いよく左右に振ったかと思うと、「夕陽色に染った蜜柑」を五つ、六つ見送る子供達の上に投げかけたのである……。はっとした『私』は、ことの一切を瞬時に悟った……

とある。奉公先に行くのだろうか。餞^{はなむ}けに送られた僅かな蜜柑を車窓から投げることが、遠く迄見送りに来てくれた弟達への、せめてもの労いなのだったろう。余り本を読まないこの私にとって、この短編は大変懐かしい。そしてこの物語の舞台は彼地(汐入)とすぐそばの吉倉(トンネル)あたりであろうか。作者は芥川龍之介。当時の『彼』は横須賀海軍機関学校の教師である。



(吉倉公園 「蜜柑」の碑)

＜平塚農業高等学校初声分校の直売の紹介＞

川名昌雄 (S48 農学科)

平塚農業高校初声分校(以下:初声分校)で行われている直売について紹介をしたいと思います。(住所三浦市初声町和田 3023-1)

初声分校は園芸科学科 1 クラスで全校でも 100 名程度の小さな学校です。園芸科学科の授業内容では野菜・果樹・草花を中心に学習

します。この授業・実習の一環で栽培・生産した農産物を毎週(学校行事でできない場合を除く)水曜日の午後 2 時から 3 時までの間に販売しています。



☆野菜部門で特に人気のあるのが、温室栽培のトマトです。このトマトを目当てに 1 時間以上前から行列ができます。販売期間は 3 月下旬から 6 月下旬くらいまでになります。次に人気があるのが、温室メロンです。販売時期は 7 月中旬になると思います。(作付けによって多少前後します)それ以外には、ブロッコリー、カリフラワー、白菜、大根、キャベツなど一般的な野菜です。時に珍しいものとしてシイタケがあります。



☆草花部門では、シクラメン(大鉢:5号鉢・ガーデン:3号ポット)の人気があります。また、サイネリアやプリムラ(メラコイデス)の 5 号鉢も人気があります。それ以外では、季節の花壇用草花苗の販売があります。春用のパンジー・ビオラ・ミニハボタン・ノースポールなど、夏用のマリーゴールド・サルビア・ニチニチソウ・ヒャクニチソウなど。いずれも数種類の品種を栽培していますので、とてもカラフルです。

☆果樹部門では、温州ミカン中心で、少量ですがキウイフルーツがあります。



これらの生産物は、その日の朝取りなど新鮮なものを市価の半額程度の安い価格で販売しています。

学校改編で、平成30年4月1日から平塚農業高等学校初声分校は三浦臨海高等学校と統合することになりました。新しい校名は三浦初声高等学校になります。その中の都市農業科として今までの初声分校の教育スタイルを存続させていきますので、直売は継続されていきます。詳しくは学校ホームページをご覧ください。

是非一度足をお運びください。

<第72回市町村対抗

「かながわ」駅伝競走大会 湘南稲桜会関係市町の活躍結果について>

下島武志 (S45 造園学科)

平成30年2月11日(日)前夜来の雨が上がり、晴天 8.4℃南西の風 0.8m/s の風の下、秦野～相模湖間7区 51.5kmの駅伝がスタート。1区 3.0km男子中学生区間は逗子市安澤君が8分59秒で区間賞、2区以降は層の厚い政令市の川崎、横浜の争いとなったが、僅差で追っていた横須賀市が最終7区を区間賞の走り、72年ぶり悲願の初優勝を達成した。



他市の成績は15位、16位、18位と葉山町、鎌倉市、逗子市がゴールし三浦市は最終区が棄権し結果なしとなった。

20～30年前、30～40歳代市民ランナーも出場した頃と比べ、近年は高校生主体で選手の平均年齢17歳位と若く隔世の感がある。皆小学生高学年から中・高校生と陸上に打ち込んで活躍している選手たちである。呉々も燃え尽きないことを祈る。

限界を知らぬ後世 おそるべし

<箱根駅伝の応援>

東京農業大学は、残念ながら平成26年を最後に出場できていませんが、今年は金子鷹君(国際バイオビジネス学科3年)が関東学生連合チームに選抜され7区(小田原～平塚)を走ることになりました。ぜひ応援がしたくなり1月3日早朝小田原へ向かいました。小田原では地元の西湘常磐松会の皆さんも20名ほど集まりのぼり、小旗を手に応援し、大根を沿道の方々にも配り、金子君の走りを応援していました。駅伝出場時に湘南稲桜会では戸塚の影取交差点付近で応援をしていたのですが来年は是非出場できるように念じ応援しました。(清水)



<たより編集委員会から>

平成9年5月に「湘南稲桜会だより」が創刊され今回が39号となりました。2年前の平成28年度は、創立20周年を祝ったところですが、このたよりも次号が第40号となります。創刊号から現在に至るまでの苦労話やエピソードは20年の歩みの中で湖水氏が述べられておられますが、創刊号からの湘南稲桜会だよりを見ていると、懐かしいお顔や、行事が思い出され、農大の精神がずっと続いているのだなとつくづく感じます。

当たよりは、現在、小清水、臼井、水留、下嶋、湖水、清水の6人の編集委員で作成しています。発行までに3回集まり、編集方針、執筆依頼、校正等を行います。原稿の打ち込

み、校正等で目を使うことが多く高齢の委員には回を重ねるごとに辛くなっております。編集に興味のある方は是非お手伝いください。次回の第40号では皆様方のたよりに対する感想などを掲載したいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。(清水)

<会員からのたより>

研修会の出欠席回答はがきに寄せられた会員のたよりをお伝えします。敬称略(事務局)

(横須賀地区)

- ・石橋 順作 (S34 学林)
腰痛のため参加できません。
- ・江間 三恵子 (S39 学栄)
湘南稲桜会のたよりは内容が充実していて、楽しく読ませていただいています。
- ・小清水かほる (S46 学経)
いつもお世話になっております。今回は都合が悪く残念ですが欠席です。
- ・池田 厚 (S48 学造)
研修会の欠席申し訳ありません。来年の総会には出席します。
- ・中谷 真司 (S55 学栄)
営業日につき欠席いたします。盛会をお祈りしています。
- ・菊本 充 (S58 学経)
福岡での単身赴任生活まだ続きそうです。
- ・湖水 康史 (S62 学農)
今年は大雨と長雨に苦労しています。
- ・深澤 貴光 (S63 学工)
9月末で一つの現場が終わり、次の現場の準備を進めています。比較的時間に余裕があるので、行事等があれば参加したいと思います。
- ・中山 大海 (H3 学農)
暑かったり寒かったり台風が来たりと農業は天候に左右され大変です。

(逗子地区)

- ・関 恵梨子 (S50 学栄)
11月は毎年世田谷キャンパス収穫祭に行っています。今年も楽しみに行く予定です。
- ・鈴木 由美 (H1 学造)
お世話になっております。研修日は他の行事があり欠席させていただきます。

(三浦地区)

- ・池田 尚弘 (S40 学農)
平素の欠席ご容赦ください。日程も程良く、

わが庭へようこそ！ということで参加させていただきます。よろしくお祈りいたします。

(鎌倉地区)

- ・梅澤 稔 (S33 学農)
地域の会議があり残念ですが参加できません。
- ・嶋村 勝美 (S39 学化)
残念ながら都合がつかず参加することができません。ご盛会を祈念いたします。
- ・白鳥 武秀 (S39 学化)
病みあがり体力に自信がありません、今回は欠席させていただきます。

(葉山地区)

- ・水留 亨 (S44 学造)
当日は緑地の法面草刈ボランティアが入っていますので欠席させていただきます。残念！
- ・下島 武志 (S45 学造)
当日午前中の城ヶ島駅伝(小学生の付添)のあと参加します。

<訃報>

当会の校友がご逝去されました、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

林 昌夫 様

昭和17年専門部拓殖科卒

平成29年9月26日 94歳
永年当会の役員として活躍されました。



寺井 俊介 様

昭和35年農学部農芸化学科卒

平成29年11月22日 81歳
永年当会の役員として活躍されました。



<新会員の加入勧誘のお願い>

日ごろより会の運営に対し、ご支援・ご協力をいただき有難うございます。

校友会活動の活性化を図るため会員の加入促進に取り組んでおりますが新規加入者があまりありません。将来的に湘南稲桜会を維持発展してゆくには新規会員の加入が急務です。このためには皆様方の力が必要です、お知り合いの方に一人でも結構ですので声をかけて加入をすすめて下さい。 校友の絆と伝統ある湘南稲桜会の無限の発展のため是非皆さま方をお願いいたします。入会案内

のチラシが事務局にありますので必要な方はお知らせ下さい。(事務局)

<会費納入のお願い>

毎度のお願いになりますが、年会費 3,000 円の会費の納入をお願いいたします。年 2 回の会報「湘南稲桜会だより」の刊行、研修会の開催、総会での講演会、箱根駅伝応援等を皆様方からの会費や寄付によって行っておりますが厳しい状況になりつつあります、今後も活発な活動ができますよう引続きお願いいたします。(事務局)

平成 30 年度定期総会 (第 22 回) のお知らせ

平成 30 年度定期総会を下記のとおり開催いたします。

会員の皆様のご出席をいただきたくご案内申し上げます。

記

1. 日 時 平成 30 年 5 月 20 日 (日)
午後 2 時～6 時
2. 開 場 ホテルハーバー横須賀
横須賀市汐入町 2-7
電話 846-822-0001
3. 議 事
(1) 平成 29 年度事業報告ならびに
収支会計報告について
(2) 平成 30 年度事業計画案ならびに
収支予算案について
(3) 役員改選について
(4) その他
4. 記念講演 演題 「未定」
近茶流嗣家 柳原尚之氏
5. 懇親会 参加費 7,000 円
準備の都合がありますので、お手数ですが出欠のご都合を同封のハガキにて 5 月 10 日までにお知らせください。
(詳細は別途ご案内いたします。)

<講師紹介>

柳原尚之氏 (醸造学科卒)

東京農業大学で発酵食品学を学ぶ。小豆島の醤油会社やオランダの帆船でのキッチンク

ルーとして勤務後、現在は、近茶流宗家の柳原一成氏とともに、東京・赤坂にある料理教室で、日本料理、茶懐石研究指導にあたる。NHK きょうの料理やテレビ朝日「モーニングバード」などテレビ出演の他、NHK ドラマ「みをつくし料理帖」、大河ドラマ「龍馬伝」などの料理監修、時代考証も数々手がける。TBS 「渡る世間は鬼ばかり」の料理所作指導を長く務めた。2015 年文化庁文化交流使に任命され、約 3 ヶ月諸外国をまわり、日本料理を広める活動を行う。その他、子供に向けた和食料理本の発行や講義を通して、子供への食育や、江戸時代の食文化の研究、継承もライフワークとして行っている。

<編集後記>

湘南稲桜会だより 39 号をお届けします。会員相互の情報交換の場としてご活用下さい。

平昌五輪が 2 月 25 日夜、日本は史上最多の 13 個のメダルを獲得し閉幕した。17 日間の大会中「友情」、「仲間」、「支える力」が国民に大きな感動を与えた。

「友情」では女子 500 名の小平奈緒選手が五輪新で金メダルを獲得した直後、三連覇を狙ったが 2 位となり泣きじゃくる韓国李相花のところに奈緒が寄り添い「頑張ったね」と声をかけた。ライバルである二人が勝負を終えたあとのすがすがしい友情に心を打たれた。

「仲間」では女子団体追い抜きで 300 日間に及ぶ共同生活を重ね金メダルを獲得した選手たちはいずれも自分たちが取ったのではなく、みんなの力でよい仲間がいたからと話し、女子カーリング銅メダルの北見の選手らは試合中に掛け合う「そだねー」の方言の素朴さも仲間意識を際立たせていた。「支える力」も大きかった。小平選手には地元長野県の病院が遠征費などの資金面を支えた。又、カーリング女子の選手にも地元企業などの応援がメダルに結び付いた。

そしてケガから奇跡の復活を果たした羽生結弦選手の連覇は東日本大震災からいまだ復興途上にある地元と互いに支えあい再び感動を呼び込んだ。

スポーツの力は人々に勇気を与え、心を豊かにし、明るい社会をつくることを改めて感じさせられた冬季五輪であった。(M. K)